

何が世界を変えたかというところ、やはり情報革命なんです。19世紀の産業革命がパクス・ブリタニカ、大英帝国を生み出し、20世紀の工業革命がパクス・アメリカーナ、大英帝国を生み出した。そして21世紀情報革命が、パクス・アメリカーナ、大英帝国を終えんさせ、パクス・アジアーナ、中国を主軸とするアジアの世紀を生み出そうとしている。

20年後のアジアはどうなるかということをお考えたとき、おそらく南北朝鮮が和解し、1つの国家連合への道を歩み始めているのではないか。そのとき、朝鮮半島に人口9000万人の国が生まれる。日本は20年後、人口1億人を切ると言われているから、同じような大きさの似たような国があそこに登場してくる。その背後には、若干減ったとしても人口13億の中国、さらに中国を追い抜いて人口15億に達するインドが控える。そして南には人口6億のASEAN（東南アジア諸国連合）がある。西には中国が推進する「一带一路」で結びつけられた中央アジアがあり、中東では湾岸戦争以来の「中東30年戦争」が終わっている。大きな枠組みで言えば、そんな近未来図の描き方ができると思います。

ではその中で、今の朝鮮半島の動きをどう理解すべきなのか。

情報革命でパクス・アジアーナが動き出した、と言いました。北朝鮮（朝鮮民主主義人

民共和国）はどうなっているでしょうか。

今は北朝鮮市民の4人に1人がスマホユーザーです。私が初めて北朝鮮に行ったのは大洪水による食糧危機後、1998年の夏でした。このときの北朝鮮は、それこそ自転車1台ありませんでした。夏と言っても、北海道並みの暑さですから、けつこう寒いのですけれども、人々は垢（あか）まみれの肌着しか着ていないのです。38度線の板門店まで車で2時間半から3時間かけて行ったのですけれども、夕方、帰ってくるたびに道々見えるアパートの窓で、電気がついているのは3分の1、しかも薄暗い。もちろん地下鉄は動いていません。最初に平壤空港に降り立ったときのフライトボードは、1週間に2便か3便、北京・平壤便しかないという状態でした。2度目は翌1999年、同じように夏に行ったのですが、車が若干台、自転車は少し増えただけという感じ。しかしテレビはなかった。私たちは招待所に泊まったのだけれども、そこにもなかった。5、6年してから、米国会った朝鮮人研究者に聞いたら、テレビが出始めましたよと言っていました。

それが今、北朝鮮の市民生活を写した写真を見ると、平壤では車があふれているとまではいかないが、たくさん行き交っている。スーパーマーケットもできている。数は多くないさそうだが、西側と変わらない状況。これに

は驚きました。今日の北朝鮮の状況の変化というのは、1998年からたった20年で、あそこに市民社会が登場し始めたということだと思います。つまり、情報革命が否応なしに世界のいわばボトムの国だった北朝鮮に市民社会を生み出し、そのシンボルとして、今の金正恩政権があるということです。

平昌オリンピックで北朝鮮チームの映像をテレビで見ると、日本の人々は驚いていたのではないですか。一つに、他国のチームに負けない振る舞い。もう一つは、北と南が合同チームを組んで女子アイスホッケーの試合を戦ったこと。これはナシヨナリズムの勃興と言えます。分断国家の極致と言えた南北朝鮮にも、統合の兆しが見え始めた。あくまで兆しだけでも。本当の統合に至るまでまだまだ時間はかかるでしょうが、少なくとも国家連合の道筋は見え始めたなと思いました。

## 南北統一への胎動が始まった

**進藤** かつて金大中さんが、獄中や書齋で南北統一のシナリオを模索する中で描いた国家連合への道筋が、今、「第三世代」のアドバイザーによって具体化されようとしている。これが今日の大きな特徴です。

南北首脳会談はこれまで、2000年の金